



Main gate park

Concept

新潟大学五十嵐キャンパス正門には、日々多くの学生や地域の住民が利用し、地域と大学をつなぐ顔となる空間が求められている。特に新入生や住民が新潟大学を訪れた際に大学の環境と歴史を知ることの出来るように、正門と工学部門を結ぶ新たな軸によるグリッド（緑のグリッド）と新潟大学移転前からある松を保存した休憩場所を提案する。

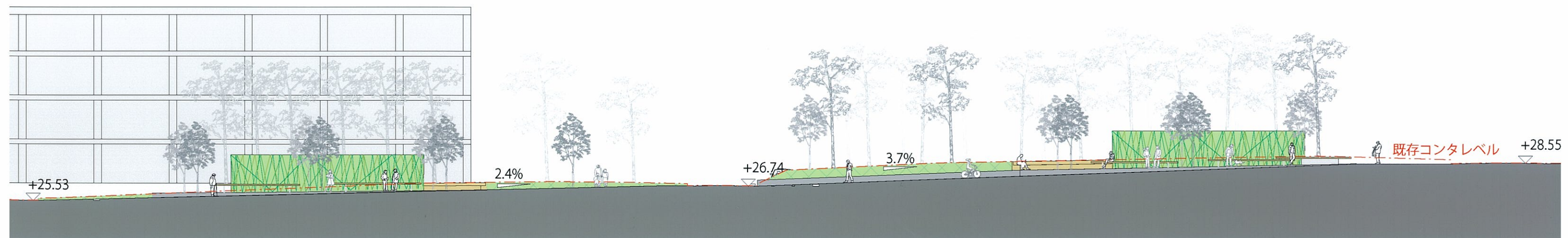
・日常的な親しみやすさ、周辺環境との調和

交差点にある松は新潟大学の歴史を継承するアイストップとして残す。そして、この松を基点に正門と工学部門を結んだ緑のグリッドを設置する。緑のグリッド上には、新に樹木を植樹し、古い松から新しい樹木への変化する並木道を構成する。この並木道を縫うようにキャンパスメインストリートからのペDESTリアンストリートとサイクリングストリートが作られ、木々に囲まれた空間を抜け大学キャンパスにアクセスする。





Plan 1/300



Section 1/300

・交通計画について

ペDESTリアンストリートはモルタル、サイクリングストリートには砂でつくり、滑り止めゴムを埋め込み緩やかなスロープとすることで自転車と歩行者の交通の混在を避ける。また、歩車分離は、注意喚起することを基本に、車道と歩道部分のデザインを変え、また照明により行う。夜間の安全や防犯ため、LEDによりペDESTリアンデッキを照らし出し、また周囲の松の木を下からライトアップすることで、夜間は光の道として浮かび上がる。

・耐久性やメンテナンス

敷地南側の樹木は周辺地域からの視界確保のために開放的にするが、北側の樹木は残し、さらにアイストップモニュメント（グリーンウォール）を北側に配置することで、冬期の北西からの雪や風から正門を守る。

・環境負荷低減

また、休憩場所、待ち合わせ場所の床面はコンクリートで舗装せず、緑化ブロックとすることで床面からの輻射を軽減する。

